

2023 JR総連春闘をたたかい抜く盛岡地本声明

JR東労組盛岡地本はこの間、全組合員の運動にこだわり、2022年度年末手当のたたかいにおいても、組合員はもとより未加入者とも議論を重ねてきた。その声を会社へぶつけてきたが、会社は、業績が好調のときは「突出感」、業績が悪化したときは「足元の動向」、業績が回復基調になれば「好循環」とし、出さない理由ばかりを並べ、第1回交渉で回答した「基本スタンス」を変えることはせず、低額回答をした。そして、再申し入れ交渉の際には「夏より増えたのはありがたいという声を直接いただいた」とし、「社友会の声」＝「社員の声」と言わんばかりに、その声のみを取り入れて回答をしたと言わざるを得ない。私たちは、年末手当回答以降、未加入者へアンケートを取り組み、「本当の声」を聞いてきた。その声は、「今後のモチベーション低下につながった」「仕事量と年末手当が見合っていない」「さまざまな取り組みにゆえたのに毎年恒例の「先が見えない」を理由にするのはどうかと思う」等、私たちが拵んだ「本当の声」は、一部社友会が作り出した「社員の声」とは大きくかけ離れた声となっている。23春闘でもほんの一部の「社員の声」に基づいた「社内世論」が作り出されてしまえば、ベースアップはもとより定期昇給さえも危うい現実を招くことを認識しなければならない。

世の中に目を向ければ、物価は上昇し実質賃金は減少している。厚労省は、物価の影響を反映した「実質賃金（2022年11月）」について、前年同期比3.8%減と発表した。一方で、物価上昇は前年同期比3.7%増と40年11ヶ月ぶりに高水準となっている。私たちの生活は物価上昇により厳しさを増すばかりだ。経団連としても、物価上昇への対応を各企業に求めており、賃金引上げは「企業の社会的責務」とし、「物価上昇」を特に重視し、賃上げのモメンタムの維持・強化を呼び掛けている。一方、JR東日本深澤社長は1月5日の経済三団体の新年祝賀会に出席し、マスコミから賃上げの考えを聞かれた際に、回答した11社の中で唯一「慎重」と回答し、賃上げに消極的な姿勢を鮮明にした。しかしJR東日本の経営状況は、2022年度第1四半期決算から黒字転換を果たしたことに加え、鉄道営業収入は2018年度比で約80%と順調な回復を見せており、支払い能力は十分にある。賃上げに対して消極的な姿勢の会社に対して、私たちはこのままでいいのだろうか。

私たちの賃金は労働組合が要求して、会社と議論をして勝ち取っていくものである。しかし、組織力はまだ大きいものではない。社員の「本当の声」を反映させるためには全組合員はもとより、未加入者と共に運動を創り出さなければ、賃上げは実現できない。JR東労組盛岡地本は、全組合員の職場からの運動で賃上げを実現し、安全で働きやすい職場の実現に向けてたたかい抜くものである！

未加入者のみなさん！このままでは、魅力がない会社、モチベーションが上がらない会社、賃金が低い会社となり、離職者が増える一方である。さらに職場の「本当の声」ではない、ほんの一部の「社員の声」が反映されてしまえば、労働条件、労働環境は悪化の一途を辿るだけである。JR東労組に加入し、「社内世論」を打ち破り賃上げの実現！労働条件・労働環境の改善！安全で働きやすい職場を創ろう！そして、JR東労組の旗のもとに結集し、仲間とスクラムを組み、たたかい抜こう！

2023年1月28日
東日本旅客鉄道労働組合
盛岡地方本部